

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

本学では生涯学習および大学開放事業の一環として、教員の出張講座を積極的に実施しています。本学教員が大学の中だけでなく、皆様方のご要望に応じて学外で活躍することも大事な役割と心得ております。今年度の一覧表をご参考に、どうぞご活用ください。応募の場合やご質問は下記までお問い合わせください。

お申し込みがあった場合や、内容等のお問い合わせがあった場合は、下記の部署が承った後に当該教員に取り次ぎ、当該教員と直接ご相談いただけます。その際、日程や教員の都合により、やむを得ずお断りをさせていただくことがありますのでご了承ください。  
お話し合いがついて日時・場所や講座内容等が決まりましたら、依頼者の所属長様から本学学長宛に正式な依頼状を郵送いただけますようお願いいたします。

お問合せ先：川崎医療福祉大学 事務部 学外出張講座【一般市民対象】担当  
TEL：086-462-1111（内線54222） E-mail:k\_kouza@mw.kawasaki-m.ac.jp

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
医療福祉学部	医療福祉	教授	岡本 宣雄	【高齢者に対するスピリチュアルケア】 人間を活かす側面に、スピリチュアリティがあります。高齢者を「いかによりよく生きるか」をスピリチュアリティをキーワードに一緒に考えます。 【生と死について考えるースピリチュアリティの観点からー】 医療福祉の実践は、いのちと向き合う現場での働きです。この講座では、自らの生と死を見つめ、スピリチュアリティの観点から対人支援について一緒に考えます。	A 介護・福祉・障害者理解
		教授	竹中 麻由美	【病氣と共に生きること】 人生の途中で病氣や障がいと共に生きることになった人と、その人たちの家族が直面する課題について考えます。周りの人々が理解することで、生きやすい社会が作られます。 【対象：一般市民、医療・福祉従事者】 【対人関係を円滑にするコミュニケーションへ働く・話す・書く】 日常生活での対人関係に役立つ具体的なコミュニケーション技術について体験します。適切なコミュニケーション技術を身につけることによって多くの人とつながることができ、自分の世界が広がります。 【対象：一般市民、医療・福祉従事者】	A 介護・福祉・障害者理解
		教授	竹中 理香	【多文化社会に生きる】 増加する外国人労働者あるいは永住者に対して、市民としてどのように向き合うのか、多様性を認め合える社会とはどのようなものであるかについてデータや具体例を交えながら考えます。	A 介護・福祉・障害者理解 L 国際理解
		特任教授	升野 光雄	【身近な遺伝から遺伝医療へーヒトの遺伝の理解のためにー】 遺伝子はヒトの体質の要因となり、病氣の原因となることもあります。遺伝情報を医療に活かす遺伝医療が始まっています。遺伝学的検査で病氣の原因を知ることによって、予防や治療が可能となる病氣も増えてきています。身近な遺伝から最新の遺伝医療についてお話しします。	D 医学・家庭医学 E 自然科学
		教授	山内 泰子	【身近な遺伝から遺伝カウンセリングまでーヒトの遺伝の理解のためにー】 遺伝情報を用いた医療が始まっています。遺伝に関する相談窓口である「遺伝カウンセリング」についてもご紹介したいと思います。岡山の方々は、桃に多くの種類があることをご存じかと思いますが、ヒトにも個人差があります。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	植田 嘉好子	【ボランティアとはじめ】 震災時だけでなく私たちの日頃の生活にもあるボランティア、人々の生きる意味について考えます。 【哲学からみた医療福祉】 医療福祉は高度に専門化・制度化・技術化されてきましたが、それでも治せない病氣や障害はあります。現象学という哲学は、認識の原理であり、人びとが経験する苦悩や不安の理解を手助けします。私たちの主観は一人ひとり異なりますが、その壁を超えることはできるのでしょうか。	A 介護・福祉・障害者理解 G 人文・社会科学
		准教授	諏訪 利明	【発達障害の理解と支援】 発達障害とは何か？彼らの世界を、彼らの行動から説明しながら、日常生活の中でどのような困難を抱えやすいのか、彼らの成長を促すために周囲はどのような点に配慮するべきかということを考えていきたいと思います。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	仲井 達哉	【介護する人の“気持ち”を考える】 高齢社会のいま、介護は身近に存在するものとなりました。高齢者や障害のある家族を介護する人が抱える悩みや気持ちについて、一緒に考えましょう。 【介護者が抱えるストレスとその対処】 介護に伴う“ストレス”をキーワードとして、介護者の心理やその背景から対処についてともに考えます。そしてそのメカニズムから対処へと展開していきます。	A 介護・福祉・障害者理解 B 心理学
		准教授	中尾 竜二	【認知症になっても住み続ける地域をめざして】 認知症になっても住み慣れた地域で生活を続けられることができる地域を目指すよう認知症を正しく理解し、学生として自分や地域が何をしていくかを一緒に考えましょう。 【地域の底力の再発見ー福祉ボランティアー】 地域共生社会の実現を目指す現在、地域では「支え手」、「受け手」ではなく誰もが参加する社会の構築が言われています。その中で、行政などの専門職だけではなく地域のボランティア（民生委員、福祉委員）など地域を支える底力を再発見していきます。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	小川 知晶	【地域の中で自分らしく暮らすー権利擁護の視点とはー】 判断能力に不安のある人の権利を守るための成年後見制度について学び、誰もが安心して地域で暮らすために私たちができることを考えましょう。 【高齢者世帯の変容と成年後見制度ー家族風の変容に焦点を当ててー】 判断能力が低下した人の尊厳が守られ、地域社会でその人らしい生活を維持するためには、本人の能力に応じた支援が必要となる。しかし、家族規模が縮小されている現在、家族だけで支えることが難しくなっている。専門職後見人と親族のサポート、自己決定支援の在り方について考えましょう。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	小田桐 早苗	【自閉症の理解】 自閉症の方の感じ方、捉え方について一緒に学びます。違いを学び、違いを活かした相互理解のあり方を考えます。 【自閉症児・者への家族支援について】 家族に焦点を当て、家族の思いに寄り添う支援について考えたいと思います。	A 介護・福祉・障害者理解 A 介護・福祉・障害者理解
		特任講師	田淵 泰子	【働くことで私を生かすーアナウンサーからソーシャルワーカーへー】 アナウンサーからソーシャルワーカーに転職し、2つの職種に就いた体験を通じて、福祉の仕事内容や遣り甲斐についてお話し、キャリアプランや“働く”ことの意義について考える機会とします。 【共に生きる】 女性・子ども・高齢者・外国人・障がい者・ハンセン病・LGBT・インターネットによる人権等の人権を取り挙げ、多様な人々と共に生きる社会のあり方についてお話しします。皆さんの生活の中にある“人権”について考える機会とします。 【思春期のこころの病とは】 精神疾患「こころの病」は、五大疾患の1つに指定され、急増している国民病です。思春期に好発する「統合失調症」は、思春期に好発する二大疾患の1つです。統合失調症を中心に、誰もが罹患する可能性がある「こころの病」について、予防の知識や治療、援助希求等、メンタルヘルスリテラシーについてお話しします。	K 能力・キャリア開発 A 介護・福祉・障害者理解 L 国際理解 A 介護・福祉・障害者理解
		講師	直島 克樹	【子どもの貧困への理解と支援】 近年大きく問題となっている子どもの貧困問題について、その子どもたちや家庭の実態、支援の現状や課題について考えていきます。 【福祉とまちづくり】 「地域共生社会」が求められる中、地域の住民は支援の担い手としても期待されている一方で、その限界も見えてきています。今後の地域福祉をどのように考えていくべきか、事例も交えてお話ししていきます。	M 子ども A 介護・福祉・障害者理解
		講師	山本 茜	【自閉症の理解と支援】 一人ひとり違う自閉症の人の特徴、感じ方と捉え方について理解し、周りがどのように関わっていけばよいか、基本的な考え方についてお話しします。	A 介護・福祉・障害者理解
		助教	岸本 和美	【学校や学校に不適応状態になりつつある児童生徒の理解と支援ー学校だからできることー】 不登校状態となる前に、教室に入れない、特定の授業に行けない、欠席が増える、保健室登校をしているなど、不適応状態になっている児童生徒のことについて、背景要因の理解と支援のアイディアについてお話しします。	M 子ども
		教授	進藤 貴子	【不登校児童・生徒の理解と対応について】 不登校の経過について解説し、「学校へ行きたいのに行けない、行かない」という子どもの気持ちと家族の対応について、また周囲の人の役割について、考えたいと思います。 【高齢者の心理】 性格・知能など精神面の加齢現象、身体的な加齢現象、社会的な加齢現象と高齢者の知恵について解説し、認知症や身体疾患の予防と受け止め方について、皆で健康な老後を支え合えるよう一緒に考えたいと思います。	M 子ども B 心理学
		教授	高尾 堅司	【防災ー社会心理学的な解釈ー】 「防災のノウハウ」や「災害に脆弱な場所はどこか」に関して説明するのではなく、防災行動を社会心理学的に説明します。	B 心理学
		教授	武井 祐子	【乳児期、幼児期、児童期の発達と対応】 生まれてから小学校卒業くらいまでの子どものこころの発達について、身近なことから専門的な視点に広げて解説します。そのうえで、周囲が子どもの発達をそがけないよう、どのように関わっていくのが望ましいのか考えていきたいと思います。	M 子ども

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
臨床心理		教授	武井 祐子	<b>「発達障害の理解と対応」</b> 発達障害の方たちが日常のなかでどのような困難を抱えやすいのか、周囲はどのような点に配慮するべきかということを考えていきたいと思ひます。	A 介護・福祉・障害者理解
		教授	谷原 弘之	<b>「働く人のメンタルヘルス」</b> 職場の人間関係のストレス等により、一時的な不適応になることがあると思ひます。アメリカのメンタルヘルス・サービスであるEAP (Employee Assistance Program: 従業員援助プログラム) を紹介しながら、健康で働き続けることを考えていきたいと思ひます。	B 心理学
		教授	福岡 欣治	<b>「人の心がわかる?～心理学を学んでみよう～」</b> 他人の心 (気持ち) がわかったらいいなと思つたことはありませんか? でもむずかしいですね。心理学を勉強すればすぐわかる……わけではありませんが、人の心がわかるということについて、きっとヒントが得られると思ひます。体験をまじえて学んでみましょう。	B 心理学
		教授	水子 学	<b>「脳損傷から見る心の不思議」</b> 交通事故や脳の病気がよつて脳が傷つくと、心の世界にも変化が生じます。脳損傷に伴つて出現する具体的な症状を紹介しながら、脳が生み出す心の仕組みについてお話しします。	B 心理学
		准教授	荒井 佐和子	<b>「認知症とともに生きる一お互いさまの絆づくり」</b> 認知症は誰しもがなりうる病気です。認知症の基礎知識を解説した上で、認知症になつても安心して暮らすために本人や家族、そして地域の人に来ることを一緒に考えていきたいと思ひます。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	門田 昌子	<b>「心理学から考える行動の原理」</b> 「おいしいと言われたおかずをもう一度作る」「飼ひ犬にお手を教える」これらの行動は、実は同じ理論で説明できます。心理学の「学習理論」の立場から、日常生活の中でよくある行動について解説します。	B 心理学
		准教授	佐々木 新	<b>「子どもとの関係を強くする子育てスキル」</b> 幼い子どもとの関係を深めていく時、大人はどのような声かけをすればよいのか、ペアレント・トレーニングのエッセンスを紹介しながら一緒に考えていきたいと思ひます (高校生以上の方対象)。	M 子ども
		准教授	佐々木 新	<b>「行動障害の理解と支援」</b> 知的障害を伴う自閉症者が示す行動障害について、その理解の仕方や支援の方法について説明します。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	瀧川 真也	<b>「記憶と感情の心理学」</b> 人は何のために過去を振り返るのか、こころと記憶にはどのような関係があるのかについて心理学の立場からお話しします。	B 心理学
		准教授	中村 有里	<b>「精神障がいって何?」</b> 精神障がい (特に統合失調症、強迫症) の症状と心理的支援についてお話しします。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	池内 由子	<b>「ストレスのしくみについて」</b> ストレス反応は誰にでもおこる自然な反応です。まずは自分のストレスに気づくことが予防の第一歩です。ストレスのしくみや対処の仕方について、実際のワークを体験していただきながらお話ししたいと思います。	B 心理学
		講師	今里 有紀子	<b>「はぐくむ親子関係～メンタライゼーションってなに?～」</b> 乳幼児がこころをつくっていく過程の中で、親の機能や親子の交流はとても大切な基盤となります。その中でも近年、欧米ではメンタライゼーションという考えに基づいた子育て支援が行われ有効性が実証されています。子どもの心をはぐくむための親の態度や技術についてお話ししたいと思います。	B 心理学
		講師	齊藤 由美	<b>「精神障害のある方から教えてもらったこと」</b> 誰かを「支援する」とき、大切なことはどのようなことなのでしょう? 精神障害のある方と関わる中で教えてもらったことをお伝えし、「支援する」ということについて一緒に考えていきたいと思ひます。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	竹内 いつ子	<b>「イメージ表現を介した他者との関わり」</b> 身体を動かす、絵を描く、またはちよつとした落書きでも気持ちを表したり、人と関わるきっかけになることがあります。	F 文化・芸術
		講師	山根 壽史	<b>「統計リテラシーを身につける～インチャグラフに騙されないために～」</b> メディアでは連日、様々な統計調査のデータやグラフが取り上げられています。こうしたデータやグラフの中には、特定の主張をサポートするために、悪意ある加工が行われているものもあります。こうした「インチャ」データ・グラフの実例を示しながら、騙されないための心構えについてお話しします。	N その他
		助教	岡野 維新	<b>「カウンセリング場面でも用いられる相手の話し方について」</b> 「私の話を聞いてもらえた・分かってもらえた」という体験は少なからず嬉しいものです。カウンセリング場面に限らず、普段のコミュニケーション場面でも活用できる相手の話し方の基本をロールプレイを通して皆さんと学びたいと思ひます。	B 心理学
		助教	則武 良英	<b>「心理学の視点からみたプレッシャーに負けない方法」</b> 失敗したくない! と思うときに限って、うっかり失敗してしまうことはありませんか? 気合いでプレッシャーに打ち勝つような根拠論ではなく、もっと優しく心理学の視点からプレッシャーに負けない方法をお話しします。	B 心理学
		助教	本城 瑞恵	<b>「心理学を社会にいかすー教育領域でのお仕事ー」</b> 教育領域 (特に学校・適応指導教室) における心理学的な視点や役割、支援についてお話しします。	B 心理学
		助教	湯淺 純	<b>「コミュニケーションスキルを鍛えよう」</b> コミュニケーションは日常において大事なことです。とても難しいものです。そんなコミュニケーションの中で使える簡単なスキルをお伝えしたいと思います。	B 心理学
		教授	尾崎 公彦	<b>「一枚の紙から広がる遊びとコミュニケーション」</b> 一枚の紙から、様々な遊びを展開してゆくワークショップを行ないます。手作りの面白さ、遊ぶ楽しさを再確認し、豊かなコミュニケーションを発生させ遊びについて新たな視点をつくりだしてゆきます。 [対象: 中学生・高校生・保育者・一般市民]	M 子ども
		教授	中川 智之	<b>「子どもの成長の支援」</b> 子どもの成長を支援するために、私たちはどんなことができるのでしょうか。子どもの成長を支援する方法について一緒に考える中で、保育園・幼稚園・認定こども園に勤務する保育者の仕事の内容も踏まえてお話しします。	F 文化・芸術
		教授	中原 朋生	<b>「幼児期からはじまるアメリカの憲法教育ー多様性と公正のための教育ー」</b> 本講座では、アメリカ合衆国における子どものための憲法教育カリキュラムとその背景にある子ども観・教育観の考察を通して、多様性と公正のための教育の在り方について、講義とグループワークを通して考えます。	M 子ども
		准教授	笹川 拓也	<b>「『福祉』について考える」</b> 少子・高齢社会を背景に、福祉ニーズが多様化・複雑化してきています。そうしたなか、我々の生活を支える福祉がどうあるべきか考えていきます。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	森本 寛訓	<b>「対人援助職のメンタルヘルス」</b> 看護や介護、保育などの対人援助職は、援助する相手を「ケアする (care: 気づかう)」ことをベースに仕事を行います。ただ、そのために心理的負担が大きく、メンタルヘルスの不調を体験しやすい傾向にあります。対人援助職者が自身のメンタルヘルスを保持するために注意すべきポイントをいくつかご紹介いたします。	B 心理学
		講師	岡正 寛子	<b>「地域における包括的支援ー地域の社会資源マップを作ろうー」</b> 住み慣れた地域で自分らしい暮らしをするために、どのような人、物、制度、事情が必要でしょうか。今、皆さんが暮らしている地域の社会資源を見直してみよう。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	重松 孝治	<b>「誰もが育つ園 (学校・地域) を目指してー障がいのある人のことばから学ぶことー」</b> 近年、発達障がいなどへの注目が高まる中で、障がいのある子どもたちと周りの子どもたちが共に学び、育つ「インクルーシブ保育/教育」の実践が進められています。本講座ではこうした取り組みの内容に加え、この実践がそれぞれの子どもたちにも与える影響や家庭・地域としてどう見守るべきかについて分かりやすくお話しいたします。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	藤澤 智子	<b>「障害のある人と地域で暮らすこと」</b> 障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らしていくために、地域の中で共に生活する者として何ができるでしょうか、一緒に考えていきましょう。	A 介護・福祉・障害者理解
	講師	松本 優作	<b>「精神科ってどんなところ」</b> 「精神科」と聞いてもなかなかイメージできないものです。精神科でどのような治療ができるのか、どんな時に受診をした方がよいのか、初めての受診や入院の流れといった素朴な疑問を、相談員 (精神保健福祉士) の視点からお話しさせていただきます。	A 介護・福祉・障害者理解	
	助教	荻野 真知子	<b>「子どもの健康と安全について」</b> 子どものけがには、発育の段階に応じた特徴があります。子どもが安全に生活するためにどのような援助や配慮が必要となるかお話しさせていただきます。	M 子ども	
	助教	伊達 希久子	<b>「子どもから大人まで楽しむ歌あそび」</b> 季節や様々な曲の背景を感じながら歌を楽しみむことができるようになってほしいと願っています。昔ながらの曲や今親しまれている曲などを交えながら一緒に歌を楽しむ内容を考えております。	F 文化・芸術	
	助教	種村 伸也	<b>「障害者の相談員が語る、『人』から始まるチームアプローチ」</b> 人へのサポートは障害当事者・支援機関など、人と出会うところから始まります。障害者相談支援の実態や、当事者本人も含めて『みんなで一緒に』前に進む過程などを体験をもとにお話しします。	A 介護・福祉・障害者理解	
	助教	蓮井 和也	<b>「子どもの育ちを支える『認定こども園』」</b> 幼稚園・保育所に加わり、認定こども園という教育・保育施設が新たに広がりを見せています。子どもの育ちや保護者を支える「認定こども園」とはどのような役割・課題があるかを、保育の楽しさを交えながらお話しさせていただきます。	M 子ども	

医療福祉学部

医療保育

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
保健看護学部	保健看護	教授	石田 実知子	<b>「不安・不眠・うつ状態を改善するコツ」</b> 体の疲れはすぐ実感できますが、心の疲れは実感にくいのが難しい点です。何となく気分が落ち込んでくる状態をそのままにしておくと、うつ状態につながることもあるので早めの対応が必要です。改善のコツについてお話していきます。 <b>「ストレスとメンタルヘルス」</b> ストレスについて知り、感情をコントロールし、充実した時間を過ごすような技術をお伝えできたらと思います。	D 医学・家庭医学
		教授	片岡 久美恵	<b>「流産や死産を経験した方の支援について」</b> 周産期においては、医療がどんなに発達しても避けられない流産や死産があります。その悲しみについて理解し、支援の仕方についてお話します。	N その他
		教授	竹田 恵子	<b>「老年期を生き生きと過ごすために」</b> 高齢者のこことからたの特徴を知り、ここ豊かに老年期を過ごすためにできることを一緒に考えていきたいと思います。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	富田 早苗	<b>「健康づくり」</b> 地域の健康づくりについて、皆さんと考えたいと思います。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	永井 庸央	<b>「骨髄移植について」</b> 骨髄移植とはどのようなものか、また患者さんはどのような生活をするのかをお話します。	D 医学・家庭医学
		特任教授	中新 美保子	<b>「子どもに起こりやすい事故の予防と手当て」</b> 子どもの発達と事故の関係、手当てについて体験してみよう。	D 医学・家庭医学
		特任教授	中新 美保子	<b>「子どもの病気と家庭での看護について」</b> お医者さんにかかる前に知っておこう！子どもの病気の特徴、観察、手当て、予防。	D 医学・家庭医学
		教授	廣川 恵子	<b>「あなたの大事な人ががんになったとき」</b> 家庭の中で家族が倒れたら、何か異物を飲み込んだら・・・第一発見者である家族の対応が今後に影響します。そんな時の対応や看護について一緒に考えてみませんか。	D 医学・家庭医学
		教授	森戸 雅子	<b>「在宅で長期を迎えるための準備」</b> 日頃から介護が必要となった場合や最期の過ごし方等について家族間で話し合っておくことが大切です。在宅療養者や家族を支援する訪問看護師の役割や多職種連携の現状をお伝えします。どのような準備ができるのか一緒に考えてみませんか。	A 介護・福祉・障害者理解
		特任教授	守屋 文夫	<b>「飲酒と心身」</b> 日常生活と密接に関わっているアルコールが心身に与える影響を様々な角度から解説し、その理解を深めてもらいます。	D 医学・家庭医学
		准教授	石井 陽子	<b>「喫煙が心身に及ぼす影響：知っておきたい新たな事実」</b> 日本の喫煙率は、先進国の中では依然として高い状態です。喫煙の身体への悪影響はよく知られていますが、精神面への様々な影響についても理解を深めてもらいたいと思います。	D 医学・家庭医学
		准教授	岩本 真弓	<b>「身近な公衆衛生」</b> 「衛生」には生命、生活、生きる権利（人権）を衛（まも）るという意味が込められています。健康やクオリティ・オブ・ライフ（QOL）について、健康に関連するデータを用いながらお話します。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	上野 瑞子	<b>「地域で取り組む健康づくり」</b> 健康について、公衆衛生看護の視点から皆さんと考えたいと思います。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	太田 浩子	<b>「認知症予防について-日常生活から考える-」</b> 2025年には5人に1人が認知症になると言われています。健やかに生活するために日頃からできる身近な予防法についてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	小森 智子	<b>「病気がどうまわっていきのために」</b> 特に生活習慣病と上手に付き合うためどうすると良いか一緒に考えましょう。	D 医学・家庭医学
		准教授	園田 由美	<b>「高齢者とのコミュニケーションについて」</b> 長い年月を生きてこれら高齢者、視力や聴力が低下してくる高齢者とコミュニケーションをとる際のポイントについてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	谷野 宏美	<b>「日々の生活習慣を見直してみませんか」</b> 生活習慣病は自覚症状がなく進行します。食生活や日常の習慣などを見直すことで、病気を予防したり症状を改善することができます。現在の生活習慣について、一緒に考えてみませんか。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	池上 邦子	<b>「子育てについて」</b> しつけと虐待や子どもの安全確保などについてお話していきます。	M 子ども
		講師	犬飼 智子	<b>「障害と共に豊かな生活を」</b> 身体障害を抱えながら、快適な生活を送る工夫についてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	井上 清香	<b>「家族が脳卒中になったら」</b> 家族が脳卒中で入院することになった時、どのような経過をたどり回復していくのでしょうか。どのような支援を受けられるのか、在宅介護ではどのように過ごすのか、についてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		講師	大倉 美穂	<b>「子どもの身体を守るためには」</b> あれ？いつもと違う・・・これは何のサイン？を判断し、子どもの身体を守る対応方法についてお話をします。	D 医学・家庭医学
		講師	香西 早苗	<b>「スムーズな排便について」</b> 生活の中にある便秘予防策についてお話します。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	西田 洋子	<b>「子どもの健康について考えてみませんか」</b> 子どもの健康について正しい知識を身に付け、望ましい生活習慣について一緒に考えてみましょう。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	花山 昌浩	<b>「健やかな生活のための「保健師活用術」</b> 保健師は地域の健康を護る専門職で、みなさんに身近な自治体でもさまざまな活動を行っています。しかしながら、一般的にその存在があまり知られていないのが現状です。みなさんが地域で健やかに生活するための「保健師の活用方法」についてお話します。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	内田 実花	<b>「病院受診のタイミング」家庭でできることと夜間救急でできること」</b> 突然の体調不良が起きた時、様子を見ていても良いのか病院受診をした方が良いのかという相談を受けます。現場での経験も踏まえて、救急看護師の立場からお話します。	D 医学・家庭医学
		助教	小野 安佳里	<b>「訪問看護の活用方法について」</b> 訪問看護の利用方法、訪問看護の内容について事例を交えながらお話します。	D 医学・家庭医学
		助教	佐藤 久恵	<b>「リラックスだけじゃない？アロマセラピー」</b> 様々な場面でのアロマセラピーの活用方法についてお話します。	N その他
		助教	高尾 佳代	<b>「妊娠期間を健やかに過ごすために」</b> 助産師としての専門知識を活かし、妊婦さんが快適なマタニティライフが送れるよう日常生活のポイントについてお話します。	D 医学・家庭医学
		助教	高尾 佳代	<b>「手術後の回復にむけた生活について」</b> 手術を受けた後から自宅に帰るまではどのように過ごすことになるのかお伝えし、早期回復に向けた生活での準備についてお話します。	D 医学・家庭医学
		助教	樋上 泰己	<b>「こんなときどうする？正しい知識を身につけて子どもの病気に対する不安を解消しよう」</b> 子どもの病気に対する正しい知識をお伝えし、突然の病気に慌てず対応する方法をお話します。	D 医学・家庭医学
		助教	宮川 藍	<b>「手術後の回復にむけた生活について」</b> 手術を受けた後から自宅に帰るまではどのように過ごすことになるのかお伝えし、早期回復に向けた生活での準備についてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		助教	渡辺 陽子	<b>「地域のひきこもりと家族の対応について」</b> 地域にはひきこもりと呼ばれる状態の方々の方が気づかないだけで、多数いらっしゃいます。ひきこもりとは何か。家族がひきこもり状態になった時に家族としてできることがあるのかお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		助教	渡辺 陽子	<b>「子どもに障害や病気がある家庭への支援」</b> 診断・治療技術の向上で、早ければ妊娠中に子どもの病気が見つかることがあります。また時期に関わらず、診断後も自宅で過ごすケースも増えています。そういったお子さんと暮らす家族の方たちへの支援についてお話します。	A 介護・福祉・障害者理解
		助教	渡辺 陽子	<b>「死亡原因第1位のがんという病気について」</b> がんの病態、がん治療の現状、がん検診について、がんは早期発見早期治療が重要であることをお話します。	D 医学・家庭医学

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
リハビリテーション学部	理学療法	教授	石田 弘	<b>「腰痛を防ぐ一前向きに考えて自己管理」</b> 腰が痛いし、つらく不安な気持ちになると思います。しかし実は、自己管理が可能な腰痛が大半なのです。腰痛の知識や筋力の強化、姿勢について気をつけること、予防のための運動習慣や痛みとの向き合い方についてもお話します。	C リハビリテーション
		教授	國安 勝司	<b>「リハビリテーションとは」</b> リハビリという言葉は良く知られるようになりましたが、本来のリハビリテーションとは何かをあらためてお話しします。	C リハビリテーション
		特任教授	古我 知成	<b>「痛みと鎮痛」</b> 生体の器官が悲鳴を上げて警告を鳴らしてくれる痛み、この仕組みはどのようにして抑制することができるのか、鎮痛のメカニズムとともに解説します。	C リハビリテーション
				<b>「嚥下と嘔吐」</b> 嚥下と嘔吐は全く逆方向の運動です。生きていくうえで大切な食物を飲み込む嚥下運動と取り込んでしまった毒物を早く吐き出す嘔吐運動について詳しく解説します。	C リハビリテーション
		教授	小原 謙一	<b>「“座らせり”の弊害とその予防—褥瘡を中心に—</b> “寝たきり”を予防すべきことは、すでに多くの方がご存じのことと思います。その“寝たきり”による問題を予防するために、長時間にわたって椅子や車いすに座らされている“座らせり”が近年問題視されています。ここでは、“座らせり”によって起こり得る弊害のうち、主に褥瘡について、その要因やメカニズムをわかりやすく説明し、その予防法について紹介いたします。	C リハビリテーション
		教授	藤田 大介	<b>「生活を支える福祉用具について」</b> 福祉用具の概要、使い方を紹介します。	C リハビリテーション
				<b>「簡単な動作介助の方法について～立ち上がり・乗り移り編～」</b> 安全で体への負担の少ない介助方法を紹介します。	C リハビリテーション
		准教授	伊藤 智崇	<b>「運動イメージとリハビリテーション」</b> 私たちは実際に運動（動作）を行う前にその運動を脳内でシミュレーションします。このシミュレーション過程で行われる運動イメージは、筋力増強や運動技能向上のために用いることが可能であり、また、個人の運動能力を評価する方法としても利用できます。今回は、運動イメージについて最新の知見を踏まえてお話しさせていただきます。	C リハビリテーション
		准教授	大坂 裕	<b>「直立二足歩行の獲得とリハビリテーションの関わり」</b> 人間は、地球上で直立二足歩行を獲得し、常態的に行っている唯一の生物です。進化の過程で直立二足歩行を獲得した原因や時期はまだ明らかになっていませんが、直立二足歩行がヒトの身体に与えた影響は大きく、それが原因で起こる疾病も多くあります。本講座では、直立二足歩行のメリットとデメリットを分かりやすくお伝えし、人間に特有の病気やその予防についてお話いたします。	C リハビリテーション
				<b>「地域包括ケアシステムにおける介護予防—健康寿命延伸のために—</b> 高齢者人口が急増する2025年に向けて、厚労省は住み慣れた地域でいきいきと生活できるよう、地域包括ケアシステムと呼ばれる医療・介護・福祉を一体化するシステムの構築を進めています。その大きな柱として、介護予防・生活支援が掲げられ、要支援や要介護の状態を予防することが大切です。本講座では、地域包括ケアシステムの概要をお話しするとともに、要支援・要介護状態を引き起こすロコモティブシンドロームに加え、サルコペニア、フレイルといった疾病の予防、転倒予防などについてお伝えします。	C リハビリテーション
		准教授	末廣 忠延	<b>「腰痛の原因と予防について」</b> 腰痛は、生涯を通じて60～80%の人が経験するといわれており、腰痛を予防することは重要です。そこで今回は、腰痛の原因とその予防のための腰部安定化運動・ストレッチなどを説明します。また腰痛を防止するための日常生活上での注意点を紹介します。	C リハビリテーション
		准教授	吉村 洋輔	<b>「理学療法士の仕事について」</b> 理学療法士の仕事内容や活躍する場（領域）についてお話します。	C リハビリテーション
				<b>「歩行障害へのリハビリテーション」</b> 人間にとって“普通に歩く”ということの大切さや難しさについて、脳卒中片麻痺、脊髄損傷、下肢切断など歩行障害のリハビリテーションと関連付けて興味深くお話します。また最近の話題としてロボットによる歩行支援についてもご紹介いたします。	C リハビリテーション
		講師	氏川 拓也	<b>「心疾患と運動療法」</b> 心疾患だから安静という時代は終わりました。心疾患だからこそ適度な運動が必要です。正しい知識を持って行動すれば怖くありません。生活の質を維持・向上するための運動の方法や注意点についてお話いたします。	C リハビリテーション
		講師	渡 昂佑	<b>「足の機能と健康について」</b> 私たちは普段の生活で立って歩き、1日の生活をしています。このなかで足は体の中で唯一地面と接して体を支えています。そこで足の機能と健康の関連や足を鍛えて健康増進するエクササイズについて説明します。	C リハビリテーション
		講師	木村 大輔	<b>「無意識下の運動とその加齢影響」</b> 私たちは自分の動きは自分が決めていると思っています。しかしながら、ヒトの運動の多くは、本人の意図とは関係ない部分で決まっています。自分の意志では制御できない運動とその運動に対する加齢影響について説明します。	C リハビリテーション
		講師	高橋 尚	<b>「運動と運動強度」</b> 運動は健康を向上させることが知られています。では、健康のために筋力増強や持久力の向上を目指すとするれば、どのぐらいどのような運動をすれば良いのでしょうか、近年の報告を分かりやすくお話いたします。	C リハビリテーション
		講師	永田 裕恒	<b>「小児リハビリテーションについて」</b> 小児は成人をただ小さくしたものではありません。小児のリハビリテーションでは、成長と発達を常に念頭に置き進めていき、家族の協力も得なければリハビリテーションは進みません。その中において、PT・OTが果たす役割についてわかりやすく事例等を踏まえてお話いたします。	C リハビリテーション
		講師	松本 浩実	<b>「しっ得！ロコモ予防のための運動と栄養の話」</b> 膝が痛い、腰が曲がってきた、骨が弱いといわれた、など足腰の問題で悩んでおられないか？ 足腰が悪くて歩けなくなることを“ロコモ”といいます。現在、日本では高齢者の20%程度がロコモといわれており、健康で長生きするためにはロコモを予防していかねばなりません。ロコモ予防のための運動と栄養のコツを知っていつまでも元気で生活しましょう！	C リハビリテーション
		助教	佐藤 宏樹	<b>「もしあなたが集中治療室（ICU）に入ったら～後遺症に備えるための心得～」</b> 重度な病気や大きな手術を行うと集中治療室で治療することになります。医療の発展とともに、重度な病気が治療できるようになっていますが、その治療中の身体機能低下（後遺症）によって日常生活に支障をきたすことがあります。そのような状態を集中治療後症候群（PICS：ピクス）と言い、病気になった本人だけでなく一緒に生活する家族にも影響を及ぼします。本講座では集中治療室で治療を行った後の機能障害に焦点を当てて、PICSの概要やそれらを予防するリハビリテーションを分かりやすくお話いたします。	C リハビリテーション
				<b>「今からでも遅くないフレイルの予防！」</b> 「フレイル」という言葉を皆様も一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。体の虚弱状態を表すフレイルは介護状態に至る一歩手前の概念として注目されています。実はフレイルには手足の動かしにくさだけでなく、認知機能や社会的な活動などの要素も含まれています。本講座では、「フレイル」の言葉の意味やその種類などを分かりやすく説明し、予防するためのトレーニングにも指導いたします。	C リハビリテーション
		助教	鈴木 啓太	<b>「実践、運動による糖尿病予防！」</b> 我が国の糖尿病を有する人口は急速に増加しており、糖尿病患者数を含めるとその数は約2000万人に達します。運動は2型糖尿病予防に有効ですが、実際にどのような運動をすると良いかはご存じでしょうか？世界中の研究によって効果が裏付けられている方法に加えて、運動を日常生活に取り入れるための工夫をお話します。	C リハビリテーション
		助教	弥久末 彩加	<b>「肩こりや肩の痛み予防」</b> 肩こりや肩の痛みは自然に治ると自己判断し、放置されがちです。しかし、痛みを放置することで、状態が悪化し、日常生活に支障をきたすケースはよく見られます。これは、肩こりや肩の痛みといっても様々な原因があるためです。ここでは、肩こりや肩の痛みが起こる原因について中心に、肩こりや肩の痛みに対する運動や日常生活で気を付けるポイントについてお話します。	C リハビリテーション

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
リハビリテーション学部	作業療法	教授	大野 宏明	<b>「大人の発達障害と心の健康を考える」</b> 職場や学校で不適応が起こった時に心の病をこじらせることがあります。その時に初めて発達障害の特性に気づかれる事例が増えています。発達障害の特性を適切に理解し、周りの人たちができるサポートについて考えたいと思います。	C リハビリテーション
				<b>「高齢者のストレスと心の健康を考える」</b> 長寿社会を迎え、生きがいのある豊かな老後生活を送りたいものです。しかし、健康問題など高齢者特有のストレスによって「うつ」に苦しむ方もいます。そこで、「うつ」にならないための生活習慣や思考法について説明します。	C リハビリテーション
		教授	黒住 千春	<b>「口から食べるということ」</b> 我々は普段何気なく食事をしていますが、口の中ではどのようなことが起こっているのでしょうか。摂食・嚥下メカニズム、自分で口から食べることの意義について考えてみたいと思います。	C リハビリテーション
				<b>「おいしくもぐもぐごはん ～嚥下性肺炎にならないために～」</b> 「口から食べる」ことは人生の楽しみの一つです。高齢になると、この食べる機能に様々な問題が生じます。なぜ、年をとると飲み込みが難しくなるのか、なぜ嚥下性肺炎が起こるのか、嚥下性肺炎を防ぐためにはどうすればよいのかについて考えてみたいと思います。	C リハビリテーション
		教授	妹尾 勝利	<b>「義手の種類とその役割」</b> 事故や病気によって腕や手を失った方々のリハビリテーション（作業療法）や生活支援、現存する義手の種類とその役割についてお話しします。	C リハビリテーション
				<b>「作業療法の活用法」</b> 作業療法士がどのような知識や技能を有し、どのような方々を対象に、どのような場所で活動しているのか、などを市民の皆さまに知っていただき、日常生活における作業療法の活用法について説明いたします。	C リハビリテーション
		教授	福童 武史	<b>「作業療法とは」</b> 作業とは、人が日々行うすべての行為です。人は、本能的に作業を欲し、それを成就することで自己実現を図ります。よって、作業は、人の健康や幸せに欠かせないのです。作業療法は、その概念を追求するために生まれました。以上の点を踏まえて、作業と作業療法の本質について語りたと思います。	C リハビリテーション
		准教授	小野 健一	<b>「身体障害者の在宅介護」</b> 現在の日本は超高齢化社会とも言われており、高齢者や身体障害者の介護を自宅で家族が行う在宅介護が必要となっています。そこで生じる介護負担について、負担の少ない介助の方法や、介護による気持ちのふさぎこみにならない工夫をわかりやすくお話しします。	C リハビリテーション
				<b>「地域リハビリテーションとは」</b> 障害を持たれた方や高齢者の在宅生活の支援は、当事者と暮らす家族が携わるのではなく、地域の資源を有効に利用し包括的に支援する必要があります。その中で、地域リハビリテーションという観点から介護予防や家族で行える介助法の説明や地域における介護サービスの内容をわかりやすく説明します。	C リハビリテーション
		准教授	金山 祐里	<b>「フレイルを予防しよう」</b> 健康と要介護の間の状態として「フレイル」という概念があります。要介護の1歩手前の状態ですが、適切な介入がされれば健康な状態に戻ると言われています。フレイルは歩行速度や筋力などの身体的フレイル、うつや認知症などの精神的フレイル、他者との交流や外出頻度などの社会的フレイルに分かれています。これらのフレイルについて原因や予防法についてなどわかりやすくお話しします。	C リハビリテーション
				<b>「認知症のリハビリテーション」</b> 日本は高齢者の多い国です。認知症は高齢になると発症率が高くなります。認知症は発症を予防することが、とても大切といわれています。そこで今回は、認知症の予防や、認知症に対してどのようなリハビリテーションを行うのかなどわかりやすくお話しします。	C リハビリテーション
		准教授	山形 隆造	<b>「生活行為向上のためのリハビリテーション」</b> 生活行為とは人が生きていく上で営まれる生活全般の行為のことです。身体障害により生活行為が難しくなった対象者が「やりたい」と思っている生活行為に焦点を当てた支援について、作業療法士の視点から説明します。	C リハビリテーション
		講師	大岸 太一	<b>「職場での良好な対人関係の構築に向けて」</b> 「対人関係」は職場でのストレス要因として4番目に多いことが報告されており、多くの労働者が悩みを抱えていることが考えられます。職場での良好な人間関係を構築するための有効な方法についてお話しします。	C リハビリテーション
		講師	岡本 幸	<b>「精神面の健康状態を保つには」</b> ストレスの多い社会生活の中で、心のバランスを崩してしまう人が多くなってきています。兆候を見逃さないポイントと対処方法についてお話しします。	C リハビリテーション
		講師	小池 康弘	<b>「やる気を引き出す人の関わり方」</b> 人間が起こす全ての行動には「動機づけ」が関わってきます。やる気がなかなかでない人、人にやる気を出させたい人に「動機づけ」を理論から解説し、そのメカニズムと動機づけを向上させる関わりについて紹介します。	C リハビリテーション
		講師	徳地 亮	<b>「認知症を学び、認知症の人が暮らしやすい地域をつくる」</b> 認知症は誰にでも起こり得ます。自分や家族、大切な人が発症した時に暮らしやすい地域と一緒に考えましょう。	C リハビリテーション
		講師	平田 淳也	<b>「痛みとリハビリテーション」</b> 痛みは外傷の程度だけではなく、心の状態も大きく影響するといわれています。このような痛みの原因や対策について紹介します。	C リハビリテーション
		講師	用稲 丈人	<b>「在宅介護に向けて知っておきたい福祉用具と住環境整備のポイント」</b> 病気や怪我で介護が必要となった場合、住み慣れた我が家で快適に過ごすためには、トイレやお風呂場への手すりの設置、移動しやすくなるための段差の解消、ボタフルトイレや電動昇降機などの便利な福祉用具・機器の活用など、住宅改修を含めた住環境の整備が必要となります。今回は、介護保険制度を利用した住宅改修費の給付制度や福祉用具の貸与・給付制度の仕組み、ミニ事例を用いた住環境整備の活用法などについてお話しします。	C リハビリテーション
		講師	吉村 学	<b>「発達障害児に対する遊びを用いた支援」</b> 作業療法では、自閉スペクトラム症や注意欠如多動症などの発達に遅れのある子供に対して、「遊び」を通して発達と成長を促しています。どのように作業療法士は考え、発達に遅れのある子供たちと関わっているのか、実例を提示しながらお話しします。	C リハビリテーション
		教授	宇野 雅子	<b>「頭頸部痛治療と嚥下障害」</b> 頭頸部痛患者の嚥下障害についてお話しします。	D 医学・家庭医学
		教授	太田 信子	<b>「し忘れをふせぐ」</b> 加齢や脳の病気で「し忘れ」が起こりやすくなります。「し忘れ」の仕組みと「予防方法」についてお話しします。	C リハビリテーション
				<b>「認知症の予防とコグニサイズのすすめ」</b> 将来認知症に進むリスクが高い認知的フレイルについて説明します。日常の活動状況を簡単にチェックしていただき、認知症を予防するための日常生活のポイントや予防法「コグニサイズ」についてお伝えします。	D 医学・家庭医学
		教授	塩見 将志	<b>「吃音の治療に関連する因子について」</b> 吃音の治療に関連する因子について解説するとともに、吃音の治療には早期発見と早期支援が重要であることについてお話しします。	D 医学・家庭医学
		教授	時田 春樹	<b>「認知機能の低下を予防するために知っておきたい5つのこと」</b> 健康な一般高齢者において、加齢とともに認知機能が低下して行くことがあります。認知機能が低下してくる原因についても明らかになりつつあり、その予防法も含めてお話を致します。	C リハビリテーション
		教授	八田 徳高	<b>「聴覚情報処理障害（APD）」</b> 音は聞こえているけれど「ことば」として聞き取れない、「雑音の中では聞き間違いが増える」など、聴力は正常とされている方の中で、聞き取りの困難さを抱えている方がいます。聴覚情報処理とはどのようなものか実際に検査音の聞き取り等を体験しながら、まごえの困難さへの支援方法について考えていきたいと思います。	D 医学・家庭医学
		教授	福永 真哉	<b>「ことばの障害とリハビリテーション」</b> 脳卒中で生じることばの障害である失語症、構音障害、認知症による言語障害の特徴とリハビリテーションについてお話しします。	C リハビリテーション
		准教授	池野 雅裕	<b>「嚥下性肺炎を予防するためにできること～いつまでもおいしい食事を続けるための秘訣！～」</b> さまざまな病気、加齢によって、飲み込みの障害が起こります。飲み込みのメカニズムや摂食嚥下障害に対する対応方法、予防法、リハビリテーションについて概説します。	D 医学・家庭医学
		准教授	兒玉 成博	<b>「発声の仕組みとトレーニング」</b> 「どのように声を出して、どのようにすれば響きのある良い声を維持できるのか？」についてお話しします。	C リハビリテーション
		准教授	矢野 実郎	<b>「オーラルフレイルを予防する」</b> 加齢とともに口の健康は衰えていきます。これをオーラルフレイルといいます。オーラルフレイルは飲み込みの力や栄養にも関連します。オーラルフレイルの仕組みとその予防法についてお話しします。	D 医学・家庭医学
		講師	川上 紀子	<b>「まごえとコミュニケーションについて」</b> 「音が聞こえる」と「ことばが聴こえる（わかる）」ことは大きく意味が異なります。この違いはどのようなことなのか、聴覚の仕組みについて説明します。さらに、病気や加齢によって聴覚に障害が生じるとどのような問題が起こるのか、特にコミュニケーションへの問題についてとその対応策についても説明します。	D 医学・家庭医学
講師	三村 邦子	<b>「構音の発達」</b> 赤ちゃんの時には泣くだけで、音域が広がって、やがてことばを覚え、話すようになります。日本語の発音は7歳までには、大人と同じようになります。こういった声と発音に関する発達についてお話しします。	D 医学・家庭医学		
講師	小浜 尚也	<b>「日常・ビジネスで活かす表情分析」</b> 非言語情報の中で最も多くの情報を伝えるものが表情であり、近年ビジネスやコミュニケーション場面で表情の重要性が注目されています。万国共通の7表情を含め、脳と表情の関係、日常・ビジネスで役立つ表情分析についてお話しします。	B 心理学		
助教	小谷 優平	<b>「ことばの障害のある方の地域支援の在り方」</b> 脳卒中や認知症に伴うことばの障害について、その様な方をどのように地域で支えていくのか、制度的な背景も交えてお話しします。	A 介護・福祉・障害者理解		
助教	中村 克哉	<b>「食べる・飲みこむ力と姿勢の関係」</b> 食べる・飲みこむ動作と姿勢には密接な関係があります。食べる・飲みこむ力を支える正しい姿勢の重要性と、その実践方法をわかりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学		
助教	原山 秋	<b>「ことばの障害と仲間づくりのリハビリテーション」</b> 脳卒中など様々な原因によって生じることばの障害についてお話しし、仲間づくりのリハビリについて紹介いたします。	D 医学・家庭医学		
助教	山崎 志穂	<b>「ことばを育てる環境づくり」</b> ことばが育つために必要な子ども自身の発達とその発達を促すための環境調整についてお話しします。	D 医学・家庭医学		

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
リハビリテーション学部	視能療法	教授	岡 真由美	【子どもの見る機能とその異常】 私たちは、眼に映った像を脳で見えています。「見る」とは、視力だけでなく、眼の動き、立体視など多くの機能をさします。子どもの日常生活に影響する見る機能とは何か、その機能に異常があるとどのような影響が生じるかお話しします。	D 医学・家庭医学 M 子ども
		教授	細川 貴之	【好き・嫌いの脳科学】 好き、嫌いといった価値判断が脳においてどのように行われているのか最新の知見を交えてお話しします。	B 心理学
		教授	三木 淳司	【眼疾患と脳疾患による視覚障害】 主な視覚障害には視力障害や視野障害があります。視覚障害は眼球の病気の病気と思いがちですが、脳の病気により起こることもあります。	D 医学・家庭医学
		教授	山下 力	【視機能の発達について】 赤ちゃんは生まれてすぐから大人と同じようにはっきり見えているわけではありません。成長とともに視機能は発達していきます。視覚が発達期に視的環境の影響を受ける未熟な期間もあります。これらについて、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。	D 医学・家庭医学
				【高齢者に多く見られる眼疾患】 高齢者に多く見られる眼疾患として、白内障、緑内障、加齢黄斑変性などがあります。原因や自覚症状も様々です。これらの疾患について、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。	D 医学・家庭医学
				【眼と脳の関わりー視覚情報処理ー】 眼で見た情報は網膜で信号に変換され、視神経を通して脳に送られます。脳がその信号を形や色として認識し、立体感のある映像が描き出されます。また、神経を経由して両眼の筋肉を刺激し眼球運動の制御をしています。これらについて、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。	D 医学・家庭医学
				【ライフスタイルが眼に及ぼす影響】 ライフスタイルの中でも食生活や規則正しい生活はよく話題に上がります。長時間の情報通信機器の使用、屋外活動の減少、ストレス、睡眠時無呼吸症候群、高血圧や脂質異常などは眼に影響を及ぼします。これらについて、できるだけ分かりやすく解説したいと思います。	D 医学・家庭医学
		准教授	河本 けい	【色覚のバリエーションとカラーユニバーサルデザインのお話】 色覚は視覚で情報を受容する上で大きな働きをします。しかし年齢を重ねること（加齢）や色覚異常の特性を持つことなどで、色の見え方が変わることがあります。このような場合でも、色により情報を伝えられるようにする対策の一つにカラーユニバーサルデザインがあります。ここでは、色覚のしくみからカラーユニバーサルデザインの背景、実施までをお話します。	B 心理学 D 医学・家庭医学
				【ブルーライトのお話】 「ブルーライト」という言葉を聞かれた方は多くいらっしゃると思います。何かと有害なものと言われることもありますが、実際人体にどのような影響を及ぼすのでしょうか。眼科学、視覚科学の観点から考えていきます。	B 心理学 D 医学・家庭医学 J I T・パソコン
				【性多様性のお話】 近年、性的少数者（いわゆるLGBTQ+）の話題が注目を集めるようになってきました。社会における対応も徐々に進んできています。ここでは、自らトランスウーマンである演者の経験と知識をもとに、性の多様性についてお話しします。	B 心理学 G 人文・社会科学 M 子ども
		准教授	米田 剛	【視覚障害のリハビリテーション】 視覚による情報収集が中心である現代社会において、視機能の喪失は大きな障害になります。視機能を失うことはどのような事か。視覚障害者の方はそのようなリハビリテーションを行い社会復帰をされているのでしょうか。	D 医学・家庭医学
				【アイフレイルってなに？】 近年注目される「アイフレイル」は、加齢などによる総合的な視機能の衰えを指します。わが国で中途失明を引き起こす主な眼疾患は進行がゆるやかで、気づく頃には重症化していることが多く、視野や視力の低下が生活に支障を及ぼします。これらの眼疾患の早期発見のための検診や対策について、アイフレイルの視点からお話いたします。	D 医学・家庭医学
		講師	藤原 篤之	【「見えにくい」それって本当にメガネのせい？】 メガネが急にあわなくなった。これは本当にメガネが原因なのでしょうか。見えにくくなる原因は様々で、まずは原因を知ることが大切と考えます。その原因についてわかりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
				【「見えにくい」もいろいろ！】 一言に見えにくいといっても、様々な見えにくさがあります。視覚障害の大きな特徴として、その不自由さが外見からは判断がつかないことです。様々な見えにくいについて、体験を通じて感じて頂き、その原因とともに、分かりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
				【これからも目と仲良く！】 日本眼科啓発会議では「アイフレイル」という言葉を提唱しました。「フレイル」は加齢に伴い心身機能が低下する状態を指します。アイフレイルは加齢による目の機能低下を意味します。これからも快適な見え方を維持していくための対策をお話しします。	D 医学・家庭医学
		助教	荒木 俊介	【眼疾患を早期発見！視機能のセルフチェック】 見え方の質は視力検査だけでは評価できません。普段の生活では気づきにくい視野の欠けや視界の歪みなど、見え方の変化をご自身でチェックする方法を紹介します。一緒に目の健康を振り返りましょう。	D 医学・家庭医学
		助教	片岡 照子	【視覚障害者はどのようにして歩くの？】 視覚障害者が目的地に移動するには、手引き（ガイドヘルプ）、白杖、盲導犬などの方法があります。保有している視機能に加え、聴覚、触覚など他の感覚を活用した視覚障害者の歩行について分かりやすく説明します。また、手引き歩行については、今日から実践できる具体的な方法について紹介します。	C リハビリテーション D 医学・家庭医学
		助教	清水 美佳	【“見る”をサポートする視能訓練士】 眼の健康を守るサポートをしている視能訓練士の仕事内容や役割についてお話しします。	C リハビリテーション D 医学・家庭医学
				【見えるしくみと異常】 見えるとは、視覚伝導路（視路）が関係しています。視路の解剖・機能についてお話し、その機能に異常があるとどのような症状を生じるのか説明します。	D 医学・家庭医学
		助教	田邊 聖	【子どもの眼の発達と病気】 乳幼児の眼は大人と同じような視覚機能をまだ持っていませんが、眼から入った適切な視覚情報が脳に伝わることによって少しずつ発達していきます。視覚機能の発達を邪魔する原因とは何か？発達が邪魔された病気とは何か？治療法は何か？など具体的にお話しします。	D 医学・家庭医学

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
医療技術学部	臨床検査	教授	伊禮 功	【 <b>精理検査で判ること</b> 】 病理検査は病気の確定診断、臨床医の治療方針の決定において、重要な検査です。	N その他
		教授	北中 明	【 <b>貧血について</b> 】 健康診断、病院での検査などで血液検査を受ける機会が増えています。本講義では、しばしばみられる血液検査の異常である貧血について、その原因から治療までをおおまかに解説します。	D 医学・家庭医学
		教授	清隆 恵美	【 <b>顕微鏡で観る細胞の世界：ミクロからナノスケール</b> 】 光学顕微鏡（ミクロ）と電子顕微鏡（ナノ）で見える細胞の世界についてお話しします。	E 自然科学
				【 <b>感覚は不思議だ</b> 】 日常生活で当たり前すぎて意識しない感覚について神経解剖学の立場からお話しします。	D 医学・家庭医学
		教授	陶山 洋二	【 <b>からだを守る免疫のしくみ</b> 】 ヒトは免疫というシステムが働かなければ生きていけません。免疫を担当する細胞は敵を見つけるとすぐさま攻撃を開始します。ではどのようにして敵を見つけ敵と判断するのでしょうか。免疫のしくみについてお話しします。	D 医学・家庭医学
				【 <b>肥満と健康寿命</b> 】 肥満は多くの病気をまねく要因となります。特に生活習慣病、メタボリックシンドロームと密接な関係があると言われていて、肥満ってどんな状態なんだろう。自分は肥満なんだろうか、一緒に考えてみましょう。	D 医学・家庭医学
		教授	近末 久美子	【 <b>細菌、真菌、ウイルスってどう違うの？どんな感染症が起こるの？</b> 】 細菌や真菌（カビ）、ウイルス、寄生虫などの違いや特徴などを簡単にお話しします。また、細菌であれば腸管出血性大腸菌感染症やレジオネラ菌感染症、ウイルスであればインフルエンザ、ノロウイルスによる胃腸炎、寄生虫であればアニサキス症など話題の感染症についてお話しします。	D 医学・家庭医学
				【 <b>「予防医学」を考える</b> 】 医療の目的には治療することだけでなく、病気の重症化や再発など病状の悪化を予防する事も含まれます。Zumba®やストレッチで楽しみながら身体を動かし、身体とココロの健康と運動、健康増進、病気の予防などについてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
		特任教授	通山 薫	【 <b>臨床検査は健康の番人</b> 】 病院や診療所へ行くと、「じゃあ検査しましょう」とよく言われますか？ また検査ばかりとうんざりすることもあつたのでは？ なぜそんなに検査が大事なんでしょう？ 検査を専門にする立場からお話しします。	D 医学・家庭医学
				【 <b>血液は体の調子を映す鏡 貧血について</b> 】 貧血は最もよくある病気のひとつですが、気にしなくてもいい場合からきちんと治療すべき疾患まで実にさまざまです。血液検査の大切さをお伝えしたいと思います。	D 医学・家庭医学
		准教授	有安 早苗	【 <b>子宮頸がんから若い女性の命を守るワクチンと検診</b> 】 永く中断していた子宮頸がん予防のためのHPVワクチン接種推奨が、昨年末の厚生科学審議会にて積極的推奨を再開することが決定されました。子宮頸がん予防に重要なHPVワクチン接種（一次予防）と子宮頸がん検診（二次予防）を中心に子宮頸がんから命を守る方策をお話しします。	D 医学・家庭医学
		准教授	上野 浩司	【 <b>脳の発達と精神疾患について</b> 】 近年、自閉症や統合失調症などの精神疾患が増えています。まずは脳の正常な発達と脳が環境から受ける影響について理解を深めることが大切です。脳の発達、精神疾患の原因と可能な検査についてお話しいたします。	D 医学・家庭医学
		特任准教授	河口 豊	【 <b>微生物を知ろうー大腸菌と薬剤耐性菌ー</b> 】 大腸菌は大腸のなかで共生している細菌としてよく知られていますが、特定の菌株が下痢を引き起こすほか、尿路など通常存在しないところに侵入した場合はすべての菌株が感染症を引き起こす可能性があります。近年、これら大腸菌において抗菌薬が効きにくいタイプが増えています。その現状と臨床検査の関わりについてお話しします。	D 医学・家庭医学
		准教授	竹内 雅貴	【 <b>ニュース解説：ここまで来た！遺伝子改変</b> 】 ゲノム編集技術から遺伝子組換え作物まで、遺伝子のいじり方について最新の知見を解説します。 【対象：一般市民、医療従事者、小学生、中学生、高校生など】	E 自然科学 D 医学・家庭医学 N その他
				【 <b>ニュース解説：ここまで来た！再生医療</b> 】 IPS細胞の原理・応用から倫理的な側面まで、再生医療について最新の知見を解説します。 【対象：一般市民、医療従事者、小学生、中学生、高校生など】	E 自然科学 D 医学・家庭医学 N その他
		講師	岡本 佑子	【 <b>心臓病について</b> 】 ニュースでよく聞く心臓に関連する病気についてわかりやすくお話しします。普段から気を付けたいことなどについても知ってもらえたらと思います。	D 医学・家庭医学
		講師	黒住 菜美	【 <b>尿検査で何を調べているのか</b> 】 病院を受診するとまず受けることが多い尿検査。何をどうやって調べているのか、そこから何がわかるのか、検査の受け方から結果の解釈の仕方までをお話しします。	D 医学・家庭医学
		講師	高橋 陽平	【 <b>血液の行方 ～病院で採血された私の血液はどうなったの？～</b> 】 「じゃあ血液検査をしましょうか」病院で先生からよく言われる一言です。その後採血室に行き、プスリと針を刺され採血されます。どこへ採血された体が運ばれていき、1時間経つと検査結果が出揃っています。いったいこの間に何が行われているのでしょうか？ 普段知ることのできる血液検査の裏側をお話ししたいと思います。	D 医学・家庭医学
		講師	田中 慎一	【 <b>がんを見つける検査法</b> 】 がんは早期に発見することが重要とされています。がんを見つける・診断する・治療する。これらの工程について分かりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
		講師	中原 貴子	【 <b>「甘いだけじゃない」糖の秘密</b> 】 糖は「甘い」だけではなく、体の中でエネルギーを生み出したりその他の栄養分を作る素となったりと多くの役割があります。様々な糖の秘密について分かりやすく説明します。	D 医学・家庭医学 N その他
				【 <b>健診結果の見方・考え方</b> 】 健康診断は、糖尿病や生活習慣病をはじめとするさまざまな病気の早期発見につながるだけでなく、病気予防を目的として毎年行う必要があります。健診検査をなぜ行うのか？何が分かるのか？どこで実施しても同じ結果なのか？など、分かりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
		教授	荒尾 信一	【 <b>X線の医学利用</b> 】 X線の発見が医学にもたらした功績を紹介し、また、医学に利用されるX線発生装置とその性質について解説します。	D 医学・家庭医学
		教授	小野 敦	【 <b>MRI検査で何がわかる？ CT検査じゃダメなの？</b> 】 MRIは、強い磁場とFMラジオと同じ周波数の電磁波だけを使って人体を画像化しています。CT検査との違いや発見できる疾患など、MRI検査を受ける際にも役立つ知識をわかりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
		教授	原内 一	【 <b>医療とコンピュータ</b> 】 現在の医療では、コンピュータは切っても切れない存在です。実際、どのようにコンピュータが使われるのか？また、コンピュータはどのように使われるのか？ コンピュータで何が出来るのかをわかりやすく解説します。	I IT・パソコン
		教授	矢納 陽	【 <b>医療とロボット</b> 】 「医療」や「ロボット」と聞いてみなさんは何を思い浮かべますか。「制御」をキーワードにして、医療とロボットの関わりを一緒に考えていきましょう。	E 自然科学
		准教授	天野 貴司	【 <b>X線による人体内部の画像化技術</b> 】 X線を用いた人体内部の画像化技術がどのように進歩したのか、その歴史的な変遷について解説します。	D 医学・家庭医学
		准教授	五反田 龍宏	【 <b>診療放射線技師の業務と使命感</b> 】 診療放射線技師の業務は、医療の発展とともに進歩していきました。視点を医療という大きな枠組みで考えたとき、診療放射線技師がどのような業務と使命感を持って役割を果たしているのかを解説します。	D 医学・家庭医学
		准教授	竹井 泰孝	【 <b>医療における放射線利用</b> 】 医療分野における放射線利用と医療被ばくの実態、特に被ばく影響が気になる子どもの医療被ばくとリスクについて解説します。	D 医学・家庭医学
		准教授	成廣 直正	【 <b>進歩する放射線治療技術</b> 】 がんの3大治療法のひとつに放射線治療がありますが、なぜ放射線でがんが治るのでしょうか？その仕組みと近年の新しい機器や技術によって進歩している放射線治療技術について解説します。	D 医学・家庭医学
		准教授	福見 敦	【 <b>放射線と放射能</b> 】 放射線とは何でしょうか？どのようにして発生するのでしょうか？原子核の崩壊現象や放射能、身の回りにおける放射線物質について解説します。	E 自然科学
講師	今泉 大将	【 <b>がんと放射線治療</b> 】 「がんとは？」「放射線治療とは？」の2つのテーマで解説します。がんの本質や放射線治療の原理から最新情報までお話しします。	D 医学・家庭医学		
講師	五反田 留見	【 <b>妊婦と子供のX線検査は本当に危ないの？</b> 】 妊娠した女性がなぜX線検査を受けられないのか、子どものX線検査がなぜ簡単に行われないのかをわかりやすく解説します。	D 医学・家庭医学		
講師	林 明子	【 <b>放射線を見る</b> 】 放射線の物質内での挙動をコンピュータシミュレーションで示し、相互作用について解説します。	E 自然科学		
講師	舛田 隆則	【 <b>CT検査でわかる事</b> 】 CT装置は、X線を使用して人体を撮影し、そのデータをコンピュータで画像解析を行い、人体の輪切りの画像を出す検査装置です。最新のCT検査で診断できることをわかりやすく解説します。	D 医学・家庭医学		
助教	杉本 昂平	【 <b>医療画像と人工知能技術</b> 】 急速に発展する人工知能（AI）技術が、医療画像の撮影や解析のあり方をどのように変革し、実際の臨床現場でどのように活用されているのかをわかりやすく解説します。	D 医学・家庭医学		
助教	宮田 潤也	【 <b>医学物理 ～放射線治療分野にて～</b> 】 放射線治療分野における医学物理について解説します。放射線を用いた治療がどのように適切に実施できるようにしているのかをお伝えします。	D 医学・家庭医学		

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
医療技術学部	臨床工	教授	荒野 功	<b>「暮らしと電磁界」</b> 私たちは様々な家電製品に支えられて生活していますが、一方で携帯電話や電磁調理器などから放射される電磁波の人体に対する影響が心配されています。近年の電磁環境と生体への影響と安全性の研究についてわかりやすく紹介します。	N その他
		教授	逸見 知弘	<b>「さまざまなモータの仕組みと駆動方法」</b> みなさんの身の回りにたくさんある機器に利用されているモータですが、同じように医療機器にも大小様々なモータが利用されています。これらのさまざまなモータの仕組みと駆動方法について、目的ごとにわかりやすく説明します。	E 自然科学
		教授	望月 精一	<b>「体内で生成する窒素化合物のお話」</b> NO（一酸化窒素）というと公害の原因物質というイメージが強いですが、実は体内でも生成しています。生体内のNO（一酸化窒素）は、体にとってなくてはならない物質で、血管を拡張させるなどいろいろな役割をしています。そうした発見に対して1998年にノーベル賞が授与されています。ここでは、NO（一酸化窒素）の発見エピソードなども含めて解説し、活性酸素との関連も含めて、最近の研究についても簡単に触れたいと思います。	D 医学・家庭医学
		教授	山本 健一郎	<b>「中空糸膜を用いた人工臓器」</b> 一見、何の変哲もない直径0.2 mmの細い糸ですが、その中心部はマカロニのように空洞となっています。これが中空糸膜です。人工腎臓や人工肺では、この中空糸膜を用いてダメージを受けた臓器に代わり、血液中の老廃物を除去したり、ガス交換を行います。これらの人工臓器の仕組みや医学と工学の連携により進められてきた開発の歴史について紹介します。	D 医学・家庭医学
		准教授	小川 武人	<b>「人を測る ～医療と化学計測技術～」</b> 医療では、血圧や脈拍といった身近なものから血液の中の化学物質まで、多くのものを測り、その情報を診断・治療に役立てています。医療で使われる計測技術について、とくに化学の視点から紹介します。	D 医学・家庭医学
		准教授	小野 淳一	<b>「生命維持管理装置を操るスペシャリスト：臨床工学技士」</b> 一時的に生体の臓器機能を代行する生命維持管理装置である人工透析、人工呼吸器、人工心臓などを通して、これらの装置を操作、保守管理する臨床工学技士という職種について実際の医療現場での映像をふまえ、具体的にお話しします。	D 医学・家庭医学
		准教授	立花 博之	<b>「生命維持管理装置って？」</b> 名前は聞いた事がある人工呼吸器、しかし実際どんなモノだろう？人工呼吸器をはじめ、人工心臓など生命維持管理装置を紹介します。病院で使われる医療機器を少しでも知ってみましょう。	D 医学・家庭医学
		准教授	谷野 雅昭	<b>「感染と消毒」</b> 風邪も含め、感染症に一度もかかったことのない人はいないはず。細菌やウイルスによる感染とその対策となる消毒についてをわかりやすくお話しします。	D 医学・家庭医学
		准教授	福原 真一	<b>「透析の仕組みについて」</b> 現在、透析は我が国で4000を越える施設で実施され、その患者数は約30万人となっており、国民の400人に1人が透析患者になっています。透析の仕組みについて、その原理や周辺機器等を臨床工学技士の視点からわかりやすく紹介します。	D 医学・家庭医学
		講師	安藤 誠	<b>「医療機器ってなんだろう？ ～病院で使われる医療機器と保守管理の実践～」</b> 医療とともに日進月歩で進化する医療機器。実際の医療現場で用いられている医療機器を幅広く紹介するとともに、病院で行われている医療機器の保守管理の実践まで、医療機器についてわかりやすく解説します。	D 医学・家庭医学
		講師	大始良 義将	<b>「豊かな生活を設計する“人間工学”の世界」</b> 普段から利用する道具や環境はなぜその様な仕組み・色やカタチなのでしょう。全てはヒトが安心安全・快適に暮らせるように作られており医療に纏わるものも例外ではありません。豊かな生活を設計し支える人間工学の考え方についてお話しします。	N その他
		助教	片岡 真吾	<b>「私とあなたとアバター 仮想空間の不思議」</b> 近年、仮想空間で多数の試みが行われており、医学の世界においてもその傾向が見られます。仮想空間でも一つの体を得ること起こる不思議な現象と、そこから派生する技術と展望についてお話しします。	J IT・パソコン
		助教	高谷 健太	<b>「ドローンの飛行するしくみと産業応用について」</b> ドローンをはじめとしたUAV（無人航空機）の技術が身近なものとなりつつあります。本講座では、ドローンの飛行するしくみや産業応用についてわかりやすく解説します。特に、ドローンを構成するハードウェア（機械的な部分）、センサ技術（情報を感知するしくみ）、自動制御技術（自動で動くしくみ）などにフォーカスして工学的な視点でお話しします。	E 自然科学
		助教	鳥越 貴之	<b>「医療分野でのVR活用方法」</b> VRは、実際にその場にいるかのような臨場感を体験できる技術で、娯楽に限らず様々な分野で利用され、高い教育効果や効率が期待されています。ここではVRの歴史と、特に医療分野でのように活用されているかをご紹介します。	D 医学・家庭医学
		教授	奥 和之	<b>「遺伝子組み換え食品の現状と問題点」</b> 遺伝子組み換え植物を用いた食品の現状とその問題点について解説します。	I 栄養学・食育
		教授	武政 睦子	<b>「子と親のための食生活」</b> 健康やかに子どもが成長するには、何をどれだけ食べたらよいのでしょうか。自分の健康を自分で守るための食事についてお話しします。	I 栄養学・食育
		教授	村上 圭史	<b>「口腔と健康」</b> 私達の口の中にはたくさんの細菌が棲んでいます。その細菌達の原因となって、虫歯や歯周病などの病気が起こります。誤嚥性肺炎や糖尿病など、口腔以外の様々な場所での病気とも関わりが深いことが分かってきました。食べ物との関係も含め、口の中の細菌と健康についてお話しします。	D 医学・家庭医学
		准教授	遠藤 陽子	<b>「がん患者治療中の食事について」</b> がん患者さんの治療中の副作用などに対する食事の工夫についてお話しします。	I 栄養学・食育
		准教授	神崎 圭太	<b>「筋肉と栄養」</b> からだを動かす役割をになう筋肉は、十分な栄養と運動により太く・強くなりますが、これらが不足すると細く・弱くなります。筋肉を細く・弱くしないための栄養・運動についてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	中村 博範	<b>「栄養と健康」</b> 過食や偏食など、栄養素の過不足が健康に及ぼす影響についてお話しします。	I 栄養学・食育
准教授	藤澤 早美	<b>「日本型食生活を見直す」</b> 長寿国となった日本の1975年頃の食生活が国際的にも優れていると評価されています。この日本型食生活の良さと、科学的に料理を美味しくするコツについてお話しします。	I 栄養学・食育		
准教授	松本 義信	<b>「自分の食生活を見よう」</b> 日常の自分の食生活をふりかえりつつ、ヒトにとって必要な食事・栄養について考えてみましょう。	I 栄養学・食育		
講師	青木 孝文	<b>「食物繊維の役割」</b> 食物繊維は、摂取不足の改善がみられていない栄養素等の1つです。近年では腸内細菌叢との関連が認識されるようになり、その役割がより見直されてきています。この食物繊維の役割について、腸内細菌との関連や、簡単な摂取方法について紹介します。	I 栄養学・食育		
講師	河邊 聡子	<b>「食べる楽しみをいつまでも」</b> 人間は、歳を重ねるごとに体の調子も少しづつ変化してきます。その折々の変化に合わせて食生活を見直すことでいつまでもおいしく、楽しく生活することができます。心も豊かにすることができるお食事、将来を見据えて一緒に考えてみましょう。	A 介護・福祉・障害者理解		
講師	瀬部 真由	<b>「知って得する「栄養素」のはなし」</b> 私たちが生命を維持し、健康を保つために必要な「五大栄養素」の働きについてお話しします。健康維持や生活習慣病予防のために、1日に何をどれくらい食べたらよいのか？最強の栄養バランスとは？毎日の食事に役立つ情報を紹介します。栄養の正しい知識を深めて、より健康で豊かな生活を目指しましょう。	I 栄養学・食育		

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
健康体育		特任教授	小野寺 昇	「 <b>体温調節と運動</b> 」 体温を詳しく観察すると朝が低く、夜が高いことがわかります。この変化が大きいほど快適です。運動は、快適さの背景を押してくれます。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>タンDEM自転車と健康づくり</b> 」 タンDEM自転車は、2人乗りの自転車です。2人で会話し、協力し、力を合わせて漕いでいるうちに自然とその楽しさを感じます。タンDEMの楽しみ方を紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	田島 誠	「 <b>運動スキル学習とパフォーマンス</b> 」 人が運動スキルを学習する際に生じる現象や効率よく運動スキルを学習するための指導方法等について紹介・解説します。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>スポーツメンタルトレーニング</b> 」 スポーツ選手が実力を十分に発揮するために必要なメンタルトレーニングについて紹介・解説します。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	富川 健	「 <b>歩きのバイオメカニクス</b> 」(講義) 歩くという動作のメカニズムをバイオメカニクスの視点から解明し、より効果的なウォーキングを提案します。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>木刀による剣道基本技術古法</b> 」(実技) 剣道とは剣の理法の修練による人間形成の道です。木刀を用いて、礼法作法を含む剣道の特性について実習します。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	矢野 博己	「 <b>運動と休養の科学</b> 」 休むとはどういうことなのかについて科学的に講義します。スポーツにとって休むことの意義を理解しましょう。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>子どもの発育にあつた親の知力・体力</b> 」 子育ての科学について、社会とのかかわりやヒトという生き物の宿命といった点も含めてわかりやすく講義します。	H 健康・運動・スポーツ
		教授	米谷 正浩	「 <b>青少年期のスポーツ</b> 」 青少年の健全な育成に果たすスポーツの役割についてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>地域社会とスポーツ</b> 」 家庭と学校だけではなく、地域における活動(特にスポーツ)が青少年の成長はもたらす各ライフスタイルにあつた生活をいかに豊かなものにするかについてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	枝松千尋	「 <b>スポーツ動作のメカニズム</b> 」 「走る」「跳ぶ」「投げる」「打つ」のスポーツ動作のメカニズムを解説し、どうすればパフォーマンスが向上するか一緒に考えます。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	石本 恭子	「 <b>フレイル予防とその実際</b> 」 フレイルについての概説と、その予防、地域で行われている活動について紹介します。	A 介護・福祉・障害者理解
		准教授	中川 麻衣子	「 <b>ジョギング入門</b> 」(講義・実技) 生涯スポーツとして広く親しまれている「ジョギング」。その楽しさを講義及び実技を通して体験を通して紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
				「 <b>マラソンに挑戦してみよう</b> 」(講義・実技) 継続してジョギング、ランニングを親しんでいる方で、「マラソンに挑戦してみたい」、「自己記録を更新したい」という目標をもって取り組まれている方を対象に、トレーニングの方法から大会当日の楽しみ方まで、講義及び実技を通して紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	西本 哲也	「 <b>介護予防のための運動指導</b> 」 介護予防現場における体力評価と運動指導の方法を紹介します。	A 介護・福祉・障害者理解
				「 <b>少年期の運動能力向上法</b> 」 スポーツ少年団における運動能力開発トレーニング、コンディショニングとスポーツ障害予防の方法を紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
		准教授	脇本 敏裕	「 <b>動いて防ごう“メタボ・ロコモ・認知症”</b> 」 メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、認知症はいずれも生活習慣に関連し“予防”することのできる疾病です。健康づくりのための運動の重要性と方法、その効果について、実技を交えて分かりやすく解説します。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	小柳 えり	「 <b>太る・痩せるメカニズム</b> 」 太ってしまったて困る、なにかと悪者の脂肪の生体での役割と減るメカニズムをお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
		講師	朱 容仁	「 <b>中高齢者の骨の健康と身体運動</b> 」 骨粗鬆症の定義や原因を述べ、予防の必要性と予防に対する身体活動の重要性についてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
		健康体育			
				「 <b>タンパク質摂取と健康</b> 」 タンパク質の正しい摂取と重要性を説明し、タンパク質と美や健康にはどのような関係があるのかをお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
講師	桃原 司			「 <b>スポーツコンディショニングについて</b> 」 運動パフォーマンスを高めるための準備であるコンディショニングについて、実技を交えて解説します。	H 健康・運動・スポーツ
講師	中尾 有子			「 <b>well-beingを考えよう</b> 」 忙しい日々の中でふと自らのwell-beingを考えてみる時間を持ちませんか。	H 健康・運動・スポーツ
講師	西田 裕明			「 <b>特別支援教育「共生社会の実現」について考えよう</b> 」 障害のある方が、障害のない方と共に働くことができる社会の実現のために、何が出来るか一緒に考えてみましょう。	A 介護・福祉・障害者理解
講師	藤本 誠			「 <b>柔道指導における指導方法や指導者養成に関すること</b> 」 安全面に留意した柔道指導方法を説明します。又、柔道公認指導者養成についての基本的な説明をします。	H 健康・運動・スポーツ
講師	山形 高司			「 <b>ながら運動で健康アップ</b> 」 運動が体に良いことは誰でも知っていますが、なかなか“始められない”、“続かない”のもまた運動ではないでしょうか。そこで、生活の中でさりげなく実施できる運動について紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
特任講師	森 訓子			「 <b>知っていますか?病気の子どもたちのこと～病弱児の理解と支援～</b> 」 病気の子どもたちの多くは、外見上は病気の状況が分かりにくいいため特別な配慮が必要です。大学病院の院内学級(公立小学校)や病弱特別支援学校で勤務した体験をもとに、病気の子どもたちへの支援についてお話しします。	A 介護・福祉・障害者理解
助教	濱田 大幹			「 <b>運動習慣をつけよう</b> 」 忙しいからと運動ができない日が続いていませんか。日常生活の中でも取り組める運動を健康運動指導士の観点から講義および実技を通して紹介します。	H 健康・運動・スポーツ
助教	高垣 春乃			「 <b>スクールヘルスプロモーターとして行う養護教諭の保健指導</b> 」 学校においてヘルスプロモーションを主導する養護教諭が行う保健指導についてお話しします。	H 健康・運動・スポーツ
助教	渡邊 知央			「 <b>運動とうつ病の関係</b> 」 運動習慣を獲得することによって、うつ病を予防することができる可能性について、メカニズム的な観点からお話しします。	H 健康・運動・スポーツ

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー		
医療福祉経営		特任教授	渡辺 裕一	<b>「顧客視点」のマーケティング入門</b> 企業の対市場活動を顧客の視点から捉え直すことで、新たなサービスの可能性が浮上してきます。この講義ではワークショップ形式で楽しく学びます。	G 人文・社会科学		
				<b>人口変動の読み方</b> 全国市区町村の15年後の人口予測データから社会や私達の生活がどのように変化するかをワークショップ形式でわかりやすく読み解きます。	G 人文・社会科学		
		准教授	樫石 秀信	<b>「DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは？」</b> いろいろな業種・分野でDX（デジタル・トランスフォーメーション）への取り組みが加速しています。DXとは一体なんなのか。また、どのような人材やスキルが必要なのか。加えて厚生労働省が推進している医療DXについて、わかりやすく解説します。	I IT・パソコン		
				<b>「病院経営に必要なチーム医療について」</b> 病院経営にとってチーム医療の重要性がますます高まっています。チーム医療はメディカルスタッフだけでなくマネジメントスタッフ（事務系職員）の活躍が求められています。チーム医療におけるマネジメントスタッフの役割とVUCAの時代に必要とするスキルについてお話しします。	N その他		
		講師	柴山 麻祐子	<b>「ダイバーシティ経営」</b> ダイバーシティとは「多様性」を意味する言葉です。近年ダイバーシティが経営の分野でも注目を集めています。多様な人材の能力や特性を最大限に活かす経営とは？この講義では経営の視点から「多様性」を考えてみたいと思います。	G 人文・社会科学		
				<b>「これからの働き方考える」</b> 働く人たちがそれぞれの事情に合わせて多様な働き方を選択できる社会を実現するための取り組みとして「働き方改革」が進められています。これからの働き方についてワークショップ形式で考えてみたいと思います。	G 人文・社会科学		
		講師	谷光 透	<b>「病院会計」</b> <b>「社会福祉法人会計」</b> 非営利組織会計（特に、病院、社会福祉法人）の会計について、営利企業の会計（簿記）と比較しながら、実務に役立つように、説明します。	G 人文・社会科学 G 人文・社会科学		
		講師	平田 智子	<b>「公的年金制度の仕組み」</b> 私たちの老後の生活の根幹を支える主なものに公的年金制度があります。その根幹を支えるものであるからこそ、きちんと自分が加入している制度や仕組み、給付内容を知っておくことは重要なことです。そのうえで、この給付を支える財源はどこから出ているのかを考えてみたいと思います。	G 人文・社会科学		
		教授	秋山 祐治	<b>「地域での医療情報連携」</b> これからの医療は、地域のいくつかの医療機関等が協力し、病名や検査結果、投薬内容などの情報を共有しながら効率的・効果的な診療を実施していくことが大切です。情報漏洩を防ぎ、安心・安全に医療情報を連携する仕組みについてお話しします。	N その他		
		教授	佐藤 修平	<b>「画像でみるヒトの体の中」</b> コンピュータ技術の発達に伴って、現代の医療ではCT、MRI、PETなど様々な画像診断が行われ、メスを使わなくても病気の診断ができるようになってきています。これらの技術がどのようにして開発されてきたのか、そしてそれを使えばどのように体の中を覗き込むことができるかを紹介します。	D 医学・家庭医学		
		教授	渡邊 佳代	<b>「傷病名と死因統計について」</b> 日本の死因第1位は「悪性新生物（がん）」ですが、その統計はどのように作成されているかご存じですか？亡くなられた方には、医師が死亡診断書（死体検案書）を作成します。その診断書に記載された傷病名のうち、「原因死」に対して死因分類コードが付与され集計されます。「原因死とは何か？」「死因分類コードとは？」こうした疑問にお答えしながら、死因統計の仕組みをわかりやすく解説します。	N その他 D 医学・家庭医学		
		准教授	本野 勝己	<b>「地域医療構想とは」</b> 現在とこれからの地域の医療需要と提供体制についてわかりやすく解説します。	N その他		
		講師	谷川 智宏	<b>「情報とは」</b> 情報技術、情報社会、世の中には情報という言葉があふれています。情報とは何なのか、情報のもつ力とは、うまく情報とつきあうためにはどうすればいいのかなどをお話しします。	N その他		
		特任講師	間田 和俊	<b>「医療機関における情報連携について」</b> 医療機関は電子カルテを中心に医師と各部門が協力し合い診療を行っています。患者さんが医療機関を受診した際、各部門と医療情報をどのように連携し診療が行われているのか説明します。	N その他		
		講師	三田 岳彦	<b>「これからの高齢化社会に必要な新しい健康観とは」</b> 「生活機能」という健康に関する考え方があります。これは人の健康を医学的側面だけでなく、社会的側面や環境要因から複合的に捉える最先端の考え方です。本講座では、この考え方に基く人間の理解の方法やあらゆる生活場面での活用術を紹介いたします。また、障害者福祉や緩和ケアからの知見を参考に、障害とはなにか、加齢と病気の違いについても医療情報学の視点から考察してみたいと思います。	H 健康・運動・スポーツ A 介護・福祉・障害者理解 D 医学・家庭医学		
		講師	虫明 昌一	<b>「SNSとの正しい付き合い方」</b> SNSは便利なツールである一方、使い方を間違えると「ネット炎上」などのさまざまなトラブルに巻き込まれてしまいます。正しく使いこなすために情報リテラシー、ネットリテラシーを身につける必要があります。本講座では法律やルール、マナーについてお話しします。	I IT・パソコン		
		助教	大井 悠成	<b>「情報技術で医療を支える」</b> 現在、医療のIT化が進む中、医療現場で情報技術を活用できる人材の需要が高まっています。どのように情報技術で医療を支えているのか、これから、どのような情報技術で医療を支えていけるのか、説明します。	I IT・パソコン		
		助教	樫村 菜穂	<b>「電子カルテとは」</b> 紙のカルテから電子カルテになるメリットとは？電子カルテにはどんな情報や機能があるの？など、わかりやすく紹介いたします。	N その他		
		医療福祉マネジメント学部		特任教授	阿南 誠	<b>「患者さんの命を守るカルテ」</b> 医療の世界に限らずカルテをいう言葉を耳にすることが多いと思いますが、そもそもカルテとは何なのでしょう？どういう役割があるのでしょうか？患者さんの命や健康に大きな役割を果たしているカルテ。カルテとはなんだろう？参加者の方と考えることを試みたいと思います。	D 医学・家庭医学
				准教授	黒木 由美	<b>「マイナ保険証から分かること、受けることができる保険給付」</b> 昭和36年に国民皆保険制度が達成され、私たちは皆いすれかの医療保険に加入しています。この医療保険について、受診の際必要とされる理由やマイナンバーカードとの関係、そして加入者のための様々な給付、さらに受診後に受け取る明細書の内容等、医療費の仕組みと併せてお話しします。	D 医学・家庭医学
准教授	田村 久美			<b>「医療を提供する人・受ける人、すべて医療消費者」</b> 誰も医療が安全に行われることを求めています。そのためには、医療サービス提供者と受療者が共に医療参加できる状態をつくらなければなりません。本講座では、医療サービスを受療する消費者、いわゆる医療消費者の概念を解説しながら、主に受療者視点の権利と責任の具体的な行動について説明します。	D 医学・家庭医学 G 人文・社会科学		
准教授	田村 久美			<b>「職場でのマナー～立居振舞いと正しい敬語表現～」</b> 「自分の働く姿」や「会話で使う敬語」は気になりませんか。どちらも仕事を円滑に進めるために必要なことです。少し背筋を伸ばして前傾姿勢で、正しい敬語を思いやった言葉かけを。これだけで印象はかなり違ってきます。本講座では、ロールプレイングを取り入れながら、普段の立ち居振舞いと敬語の正しいかけ方を振り返りましょう。	K 能力・キャリア開発		
講師	亀井 純子			<b>「病名の持つ力～診療録の中の言葉が私たちの医療をつくる～」</b> みなさん、医療機関を一度は受診されたことがあると思います。診察後に医師が話す『診断名』や『病名』という言葉に、どのような意味が込められているかを考えたことはありますか？私たちは普段、これらの言葉に深く意識を向けることは少ないかもしれませんが、実は私たちの健康や社会保険にも大きな影響を与えています。この講座では、診療録に記載される『病名』がどのように決定され、医療費請求や社会保険制度にどのように関わっているのかをわかりやすく解説し、私たちが病名とどう向き合えばよいかを一緒に考えます。	D 医学・家庭医学 G 人文・社会科学		
講師	筑後 一郎			<b>「社会に浸透している情報環境とモラル」</b> 私たちが取り巻く世界には、携帯電話を始め、インターネット、情報機器端末が多くあふれています。しかし、これらは極めて個人的な情報が含まれており、それが漏れたことにより多大な被害を被った人も少なくありません。スマートフォンで様々なことを楽しんでいる人も多くいますが、その際に注意すべきことについて考えたいと思います。	I IT・パソコン		
				<b>「地域について考えよう」</b> 私たちは、どこかの地域に暮らしています。地域で起こっていることについて、どの程度皆さんは関心があるでしょうか。住んでいる地域によっては、様々な興味深い取り組みをしているところも増えてきました。この講義では、こうした興味深いケースを紹介し、みなさんとともにどんな地域に住むのが理想か話し合いたいと思います。	G 人文・社会科学		
教授	青木 陸祐			<b>「ひとにやさしいデザインとは」</b> ユニバーサルデザインの視点から解説を行い、日常生活の中で障害の有無に関係なく、安心・安全に暮らすためのデザインについて、その魅力や生活の中での気づきの大切さについて学びます。	F 文化・芸術		
教授	横田ヒロミツ			<b>「メタバースに入ってみよう！触れてみよう 3D！」</b> 言葉はよく聞けれど、まだ身近には感じられないメタバース。それは知るだけですぐに入れるウェブ上の仮装空間です。どう活用するかはアイデア次第。無料の3Dコンピュータグラフィックスソフトを使えば、さらにメタバースを楽しめます。3D技術によって体の中も立体視できる時代。テクノロジーは、早すぎず遅すぎないタイミングで知ることが大切です。メタバースは今が旬！	I IT・パソコン D 医学・家庭医学		
講師	合田 喜賢			<b>「住まいのデザインのこれまでとこれから」</b> 「衣食住」という言葉があるように、住まいは、わたしたちの生活の基本であり、最も身近な場所です。この講座では、日本における住まいのかたちとその変遷について解説し、その上で問題点を挙げ、今後どのようなデザインが求められるのか考えます。	F 文化・芸術		
講師	森 絵美	<b>「自分でつくる伝えるチラシづくり」</b> ワードまたはパワーポイントを使って、チラシを制作します。情報をわかりやすく伝えるためのポイントをお伝えします。	I IT・パソコン				
助教	中村 俊介	<b>「名刺から始まるコミュニケーション」</b> 「名刺」は初対面の相手と交流するための入口の一つです。「次」に繋がる、伝わりやすい情報のまとめ方をご紹介します。	I IT・パソコン				
助教	山形 千星子	<b>「本当の体内を見てみよう」</b> 一般の方が目にする医学的な図は記号化されたものが多くあります。では本当はどのような形で、どのように整理して描かれているのでしょうか。アプリを使えばCT画像を3Dデータに変換し、実際の形として見ることが出来る時代になりました。データを見ながら解説します。	I IT・パソコン				

令和7年度 学外出張講座一覧【一般市民対象】

学部	学科	役職	氏名	講座可能な対象者・テーマ等	カテゴリー
総合教育センター	基礎教育部門	教授	飯田 淳子	「健康と文化—北タイ農村での住み込み調査から」 タイの生活や死生観、病気への対処法など、健康と文化との密接なつながりについてお話しします。異文化との比較によって、日本文化の特徴が見えてくるかもしれません。	G 人文・社会科学 F 文化・芸術 L 国際理解
		教授	福島 康弘	「記憶と学習の脳内メカニズム」 人が記憶や学習をするときの脳の変化を神経科学と関連する簡単な数学モデルを使って説明します。	E 自然科学 B 心理学 D 医学・家庭医学 E 自然科学
		准教授	小池 大介	「データベースを使ってみよう！」 小鳥は人間のように複雑な音声进行学习します。行動の特徴と関係する脳のしくみについて学んでいきましょう。	J I T・パソコン
		講師	西脇 藍	「やさしいお能の見かた」 日本が世界に誇る芸能であるお能について、その見かたを、歴史や地域との関わりを踏まえつつ解説します。鑑賞会の事前学習などにもご利用いただければ幸いです。 *能以外の伝統芸能の解説についてもできるだけご相談に応じます。	F 文化・芸術
		教授	姜 波	「中国の社会とくらしについて」 経済発展が続く中国はますます注目されます。「一人っ子の成長」諸問題を、事例を交えて紹介します。 【対象：一般市民、小学生、中学生、高校生】	L 国際理解
		教授	マウル・クルニック	「Western Foreign Loan Words and Katakana」 This lecture tries to explain about borrowed words from European languages into Japanese and written with Katakana. Some examples are given with some surprising examples of non-English borrowed words. It is just an informative lecture without any social or cultural commentary.	F 文化・芸術
		教授	橋本 美香	「中世の物語にみられる人生観—『西行物語』について」 『西行物語絵巻』は、平安末期の歌僧西行をモデルとして作られた歌物語です。鎌倉時代以降に広く知られており、絵巻物も多く作られており、江戸初期の有名な画家である俵屋宗達、尾形光琳によって書かれたものもあります。このような『西行物語絵巻』の魅力について、紹介します。	G 人文・社会科学
	語学教育部門	准教授	小崎 順子	「話し言葉の特徴から見た日英比較—『重複発話』の観点から—」 日常会話の中で、複数の人が同時に話し始めたり、ある人が話している途中で別の人が会話に割り込んできたり、様々な形で発話が重複することがあります。「重複発話」の観点から、日本語と英語の違いについてお話しします。	G 人文・社会科学 L 国際理解
		講師	國弘 保明	「耀光立国オーストラリアの光と影—白豪主義と先住民族アボリジニー」 オーストラリアの先住民族アボリジニーについて、独自の文化を紹介しつつ、歴史的な経緯などについてもお話しします。	F 文化・芸術 G 人文・社会科学
		講師	佐藤 大介	「やさしい日本語—在在外国人との共生のツールとして」 在在外国人数は250万人を突破しました。多少なりとも日本語がわかる人は在在外国人の約6割で、英語がわかる人よりも多いとされています。外国人と意思疎通をはかるための「やさしい日本語」について紹介します。	L 国際理解
		講師	佐藤 大介	「英語を初めて学ぶ子どもたちに大切にしてほしいこと」 子どもたちが初めて英語を学ぶときに大切にしてほしいポイント、学校の先生や保護者の方を対象に知っておくべきポイントを紹介します。英語を学ぶ中で日本語との違いを意識することの大切さに気付く機会となればと考えています。	M 子ども
		教授	園田 祐治	「身体の中の個性：心臓と血管」 人の顔がそれぞれ違うように、内臓の形にも個性があるのをご存知でしょうか？本講座では、心臓・血管の構造・走行が、人によって違いがあることを紹介します。	L 国際理解 D 医学・家庭医学